

芸術学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学	若干名		7	5	7	5	7	4	3
	- (若干名)		5 (5)	3 (2)	5 (5)	3 (2)	4 (5)	3 (5)	1 (-)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	7(7)		5(5)		-(-)		1(10)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	44(40)			19(31)			-(-)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (5)			
	退学者	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・()は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 芸術学研究科の活動

芸術学、芸術教育学、美術論、構成学、デザイン学の5分野から成る本研究科は、造形芸術における幅広い見識を持ち、自立した研究を行う能力のある研究者ならびに高度な専門知識・能力を有する職業人の養成を目標としている。本年度もまたこの目標に向かってカリキュラムの内容の一層の充実をはかり、創造的でしかも知的雰囲気満ちた教育環境の実現を目標とした。具体的には研究指導教官と学生との緻密な連携のもとに、学会および研究科内の学術誌あるいは研究会でのそれぞれの研究発表を積極的に進めた。また社会との繋がりにあっては、本年度も地域への貢献を視野に入れて、芸術を通して人間の生活をより豊かにすべく、研究成果を広く公開し、かつ美術館、研究所等諸機関との情報の交流および人的交流を行った。これは、今後においても本研究科の大きな目標の一つである。

2 教員の教育業績評価の状況

芸術学研究科の担当教員の教育業績評価については、これまで懸案となってきたが、いまだ実現に到らない。しかしながら、芸術学研究科を含め、芸術系教育研究組織においては、現在、平成15年度中に外部評価を受けるべく準備をしており、教育業績についても客観的な評価がなされることになる。研究科として残された期間は長くないが、外部評価にも基づいて点検を行い、さらに改善に努めたい。

3 自己評価と課題

本研究科は、総合大学にあって造形芸術(デザインを含む)の創造と研究を行う特異な存在である芸術学系、芸術専門学群、大学院修士課程芸術研究科との有機的な連携の上に成り立っている。従って本研究科の構成員は、芸術学、芸術教育学、美術論、構成学、デザイン学の各分野において斬界での指導的立場に在る。その指導の下で本年度は、2名の博士(芸術学)と3名の博士(デザイン学)を誕生させることが出来た。また本研究科としては本年度から新入学生がなくなり、昨年度の入学者を含む在学学生を現行研究科の存続中に無事課程修了させることに最大限の努力を傾注するものである。